

鹿島高校生の活躍

鹿島高校は、進化と深化を続けます

校長 江口孝之（えぐたか）

本校は、鹿島市唯一の高等学校として、県西部地区における学校教育の核の一つとして大きな使命を持っていると自負しています。現状に甘んじることなく、これからも進化と深化を続けていきます。とくに今年度は、昨年度からスタートしたコミュニティスクール（学校運営協議会）をさらに充実させ、地域社会の皆様・卒業生の皆様のお力をお借りしながら、唯一無二の誇り高き鹿島高校づくりを進めていきます。

また、「普通科だけ脱『普通』」を合言葉に、普通科改革を始めます。鹿島高校の新しい普通科を皆様にご案内できればと思っています。商業科と食品調理科の特色と魅力にも磨きをかけ、プロフェッショナルを育てる学校としてさらに信頼していただけるよう努めます。さて、この1年間、私は次の言葉を生徒の皆さんに投げかけていきます。

「至誠にして大志を抱き、探求に努めよ。」

鹿島高校は、まじめな者が報われる学校・集団です。何事にも誠実に真心を持って取り組み、日々の生活を送ってほしい。これを「至誠」という言葉に託しました。生徒の皆さんは、人々の幸せ・喜びを増やしたり、人々のつらさ・悲しさを少しでも減らしたりするために自分に何ができるか、何をしたいか、志を持ってほしい。これを「大志」という言葉に託しました。日々の学校生活で最も重要なのは授業です。授業が勝負です。授業だけでなく、部活動等においても、自分を高めていくためにどうすればいいか、何が必要か、日々真実や真理を求めてほしい。これを「探求」という言葉に託しました。

「至誠」「大志」「探求」、これらが令和5年度の鹿島高校のキーワードです。

小・中学生の皆さん、保護者の皆様、この鹿島高校を将来の進学先の有力な候補としてくだされば、幸いです。

令和5年度入学式挙行



240名の新入生が鹿島高校生としての第一歩を踏み出しました。

真新しい制服を着た新入生は、期待に胸を膨らませつつ、緊張した面持ちで式に臨みました。式の中で、部活動代表の生徒と生徒会役員が校歌を紹介しました。また、吹奏楽部が演奏を行い、新入生を歓迎しました。

調理師への一歩、スタート！



令和5年4月12日（水）食品調理科1年生を対象に包丁授与式を行いました。生徒たちはひとりひとり、包丁ケースを校長から受け取り、これから始まる学習への意欲がさらに高まっているようでした。